



グループで意見交換をする参加者（岡山市北区のゆうあいセンターで）

「被災地のため何ができる？」

高校生ら意見交換

国際医療NGO「AMDA（アムダ）」（岡山市北区）と学生ボランティアグループ「AMDA中学生・高校生会」は5日、岡山市北区南方のゆうあいセンターで、身近なボランティア

について高校生が意見交換をするフォーラムを開いた。

同会メンバーを含む県内外の高校生ら約30人が参加。五つのグループに分か

れ、「被災地の復興支援のために何が出来るか」「ボランティアの輪を広げるための工夫は」「岡山での防災について高校生にできること」などをテーマに話し合った。

「高校生同士でスポーツ交流をしたり、吹奏楽の合同演奏をしたりして親交を深める」「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を利用して同世

代に参加を促す」「被災状況などの統計や印象的な言葉を使ったポスター

を作り、災害が少ないと安心している県民に危機感を持たせる」などの意見が出た。最後に、それらをまとめ、グループごとに発表した。

倉敷市立倉敷辯辞高3年山本実侑さん(17)は「一人ひとりが意識を高めることが大事だと思った。フォーラムで感じ、考えたことを学校の友達にも伝えたい」と話し、同会リーダーの県立岡山操山高3年渡代隆介さん(17)は「ボランティアに対して荷が重いイメージを持たず、興味があれば活動に参加してほしい」と呼びかけていた。